

IMF サーベイ

IMF・世界銀年次総会

IMF、四大課題の達成に向け 世界の協力を促す

IMF サーベイ・オンライン
2010年10月7日



IMFのストロスカーン専務理事は「成長が回復するだけでは、十分ではない。雇用なき成長は、市民にとっては大きな意味を持たないのだ」と述べた。(IMF 写真)

- ストロスカーン専務理事、世界経済は未だ脆弱であり、回復は一様ではないと指摘
- IMF、二番底は考えにくいだが、更なる雇用創出努力が不可欠と指摘
- 世界経済の再調整の実現が主要目標

ドミニク・ストロスカーン IMF 専務理事は、世界経済が直面している四大課題の概要を示すとともに、先進及び新興市場国・地域に対し、競争的な通貨調整を回避し、依然として脆弱な世界経済の再調整を行うために、再び協調するよう訴えた。

IMF・世銀年次総会を控えたワシントンでの記者会見の席上で、ストロスカーン専務理事は、主要な中期目標に、危機の再燃につながりかねない混乱のもととなる緊張状態を取り除くべく、世界経済の再調整を実現することを掲げた。

ストロスカーン専務理事は記者団に対し「回復は明らかに進んでいるが、周知の通り未だ極めて脆弱である。回復が一様でないことがこの理由の一つである」と語った。「アジアそして南米に目を向けると、非常に成長率が高いことが窺えるし、これらの地域に関して言えば、危機が収束したことは一目瞭然だ」

アフリカも、約5%成長への回帰を見せている。一方、欧州の回復は緩慢であり、米国の見通しは不透明だ。「先行きについては、今年の第3・第4四半期の情報が更に必要だ」と同専務理事は述べた。しかし、一部の論者が予測するような、二番底が現実のものになるとは考えにくいと述べている。

世界が集う場

IMFと世界銀行グループの年次総会には、毎年、世界各国から中央銀行総裁、財務大臣、開発大臣、民間企業幹部及び学識者が約1万人集い、世界経済の見通し、貧困撲滅、経済発展、援助の有効性など、世界的な課題について話し合う。

総会には、IMFと世界銀行の加盟187カ国の代表団が出席する。公式なセッションに加え、先進及び新興市場国・地域から成る20カ国グループ（G20）、英連邦財務相会議、先進7カ国（G7）など、様々な公式グループの会議も数多く開かれること

になっている。この他、市民社会団体、学識者及び民間部門との会議も予定されている。

四大課題

ストロスカーン専務理事は、ワシントンで代表団が取り組む課題として、次の四つを掲げた。

●**公的債務**。一部の国々、特に債務水準が非常に高い状態で金融危機を迎えた国にとり、財政の持続可能性が依然として課題となっている。「我々は、中期的な財政再建を強く支持しているが、これは、短期的に全ての国が、可能な限り緊縮しなければならないことを意味するのではない。これは各国の情勢次第であり、各国独自のものである」。回復が依然として脆弱で民需が弱い国では、引き続き需要の下支えが必要である。

●**雇用なき回復**。成長の回復のみでは不十分である。「雇用を伴う成長が必要だ。市民には、雇用なき成長は大きな意味はない。つまり、明らかなのは、失業率が大幅に改善するまで、危機は終わらないということだ」

●**金融部門改革**。新たな「バーゼル III」を通じた取り組みを筆頭に、規制の強化に向け多くが行われてきたが、世界危機の中心にあった金融部門の監督及び規制の問題については、更に多くの努力を払う必要がある。この他、ストロスカーン専務理事は、IMFが同部門への課税の動きを支持していることにも言及した。

世界レベルでの協力。世界は非常に密接な協力体制をとったことで、経済危機を乗り切ったが、その機運は今では衰えつつある。有利な立場に立つために、自国通貨を競争的に調整する動きが各国間に現れ始めていることが、その例の一つだろう。「我々全てが望んでいるのは世界経済の再調整であり、そうした再調整には当然、相対的な通貨価値の変化という結果がついてくる」

IMFの改革

ストロスカーン専務理事は、これらの課題に対処するにあたり鍵となるのは、現在行われている、加盟国のIMFでの代表権を表す**クォータ（出資割当額）制度**の改革を含めた、IMFの正当性及びガバナンスの強化だと述べた。

「IMFは、今回の危機でその重要性を示したが、正当性の問題が依然として残っている」。ストロスカーン専務理事は作業は着々と進んでいるとし、同氏が言うところの「世界経済における変化を適切に反映している」よりダイナミックな新興市場国への代表権の移行は、2011年1月の期限にまでに達成できると語った。

以上の他、ストロスカーン専務理事は、通貨、ギリシャ、新興市場国・地域への資本の流れ、ブラジル、金融部門への課税、アルゼンチンなど、多岐に渡る事柄についての質問に答えた。

各種会議の公式セッションは10月8日から10日に行われ、この他にも様々なセミナーやセッションが行われる。

このダイアログの中心にあるのが**セミナー・プログラム**である。これは、二つの基調セミナーとそれを基にした三つの「ブレイクアウト・セッション（分科会）」から構成される。これは、財務相や中央銀行総裁、市民社会団体、学識者及び民間部門など、年次総会の参加者が、世界の経済政策の議論の中核的課題について、協議を行う機会を提供するものとなっている。また、加盟国の一部や広く一般の人々が、これまでと異なりこうした話し合いに加わる機会となるものと期待される。